

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意
癰瘍剤 外瘍剤 (陰証) 1		
<p>ようわとう 陽和湯</p> <p>外科全生集</p>	<p>温陽補血・散寒通滯</p> <p><主治> 陰疽 慢性に経過する化膿傾向のない腫脹、潰瘍、フィステル（瘻孔）、しこり、寒冷膿瘍などで、熱感、発赤がなく、口渇がない、舌質は淡、脈は沈細などを呈する。</p> <p><病機> 陽虚陰寒で営血も虚し、寒凝痰滯を伴って筋肉、筋骨、血脈、関節などを痺阻したために発生する瘍疽、すなわち「陰疽」である。 寒凝痰滯であるから、慢性の経過をとり化膿傾向、熱感、発赤がなく、腫脹、潰瘍、フィステル（瘻孔）、しこり、寒冷膿瘍などとして発現する。陽虚、営血不足のために、口渇がない、舌質は淡、脈は沈細などを呈する。</p> <p><方意> 温陽補血を主とし、散寒通滯を配合する。 温補営血の熟地黄が主薬で大量に用い、填精補髓、強壯筋骨、養血助陽の鹿角膠および温陽、温経通脈の炮姜・肉桂が補助し、温陽補血の効果をあげる。辛温の白芥子は皮裏膜外の痰を去り、麻黄は腠理を開き達表させ、寒凝痰滯を除去する。生甘草は解毒に働く。全体で温陽補血、宣通血脈、散寒祛痰の効能が得られ、太陽が陰霾（もや）を晴らすような効果をあげるので、「陽和」と称する。</p> <p><参考> 本方（陽和湯）は、紅腫熱痛を呈する陽証の癰瘍や、陰虚有熱、あるいは潰破した陰疽には用いない。陰疽が潰破した後には、腠理を開いて衛気失固、営血不足をきたす恐れのある麻黄は禁忌である。</p>	<p>熟地黄 30g・肉桂 3g（沖服）・麻黄 2g・鹿角膠 9g（烊化）・白芥子 6g・姜炭（炮姜） 2g・生甘草 3g</p> <p>水煎し、鹿角膠を溶かし肉桂末を入れて、分3で服用する。</p>